「自衛」としてのジェノサイド/共犯者の西側メディア/私たちは立ち上がる！

ピーター・ヘーンスラー

SONAR21 2025 年 7 月 17 日

https://sonar21.com/genocide-as-self-defense-western-media-as-accomplices-to-the-genocide-in-gaza-we-stand-up/?jetpack_skip_subscription_popup

現在の大量虐殺は、1948 年以来続く暴力の連鎖の頂点であり、欧米の権力者たちはそれを何世代にもわたって隠蔽してきた。 メディアはジェノサイド（大量虐殺）を正当防衛として描いているが、彼らはまさに共犯者である。

はじめに

この論考が扱うのはまさに不快なテーマである。ジェノサイドは公然と行われ、ほとんどの西側メディアによって助長され、正当化されている。ユダヤ人

であれ非ユダヤ人であれ、反対する人々が最も恥ずべき方法で攻撃され、中傷され、脅迫されている。

優位にたつこのような勢力に立ち向かうことは困難であるばかりか、実に危険である。 しかし私たちは立ち上がることにした。想像してみよう。20 年後、膝の上に抱いた孫から「おじいちゃん、赤ちゃんが平然と虐殺されていた時代にどう思ったの。 なぜみんな黙っていたの。おじいちゃんも黙っていたの」と聞かれたら、何と答えるのか。

すべては偽りのおとぎ話から始まった

私は 1964 年にチューリッヒで生まれ、幼い頃から当たり前のように言われてきた。「イスラエル人はいい人たちだが、パレスチナ人はテロリストだ」と。両親や教師からこう教え込まれて、戦争でイスラエルの英雄たちが邪悪なアラブ人を打ち負かすのをテレビで見て、自分たちは幸福だと実感した。善が勝ち、私たちは歴史の正しい側にいて、プロテスタントのグラマースクール（小学校）の宗教教育の授業ではヘブライ語の歌を歌った。

私は、このようなものの見方が現実とは何の関係もないことにまったく気づいていなかった。 私の友人や知人たちも、何十年もの間、同じだった。

懐疑主義 - 現実が作り上げるもの

1997 年に初めてモスクワを訪れたとき、私は西洋人にはまったくなじみのないロシア人特有の性格、つまり懐疑主義にであった。 ロシア人には性格というか能力が備わっている。メディアであれ政府であれ、与えられた情報のすべてに注意を払い、鵜呑みにするのではなく、すべてを疑うのである。

懐疑主義の発見は私の人格形成の一部となり、考え方にながく影響を与えた。確かに、疑うことは信じることよりもずっと大変で、ほとんどの人が親や教師、牧師や政治家、メディアの言うことをすべて信じている。だから欧米では懐疑論者はまったく少数派である。 さらに、政治家やメディアは議論に「民主主義的な感触」を加える。 彼らは、多数派の意見が正しいのだという考え

方を植え付ける。 これは全くのナンセンスなのだが、多くの人はこのおとぎ話を信じている。

この 30 年ほどの間に、私は多くのことを学ばなければならなかった。 インターネットは、権力者から物語の主導権を奪う情報源を開いてくれるが、嘘にもあふれている。懐疑主義を適用すれば、インターネットは事実を収集できる宇宙を開いてくれる。

2023 年 10 月 7 日 "最終的解決 "の引き金

血祭りシリーズ

ハマスが 2023 年 10 月 7 日に攻撃すると、数時間以内に赤ん坊が斬首され、怪物たちによる集団レイプがあったと報道された。私たちは待つことにした。私たちはこの出来事を、血の惨事についてのシリーズを書く機会と捉えたのだ。

権力者は、目的を達成するためなら手段を選ばない

私たちの狙いは、流血の惨事が時として "犠牲者 "自身によって引き起こされ、それが戦争という形でさらに血なまぐさい大虐殺を正当化するために利用されていることを示すことだった。 ついでに言えば、9.11 に関するアメリカの主張が真実でないこともあり得ることにも気づいていた。 この論考で判明したことは、次の一文に要約することができ。「この世界の権力者は、目的を達成するためには手段を選ばない」ということである。

（中略）

イスラエル - 被害者から加害者へ、そして被害者へ - 80 年間の往来

我々は、2023 年 11 月 5 日から 12 月 29 日までのイスラエルについて、以下の 5 回シリーズで発表した。

イスラエルの歴史に関するシリーズの第 1 部 (1914-1948)では、建国までの期間に光を当てた。 イスラエルは、国連決議 181 号に反し、アラブ諸国の意思に反して、一方的に宣言された。 その結果、初日から戦争が始まった。

第 2 部 (1948-1956)はスエズ危機で終わった。 この第二次世界大戦の結果、イギリスは中東における支配的地位を失った。 それ以来、イスラエルはあらゆる問題でアメリカと協調するようになった。 もうひとつの結果は、イスラエルとエジプトの国境に国連軍が駐留したことである。

6 日間戦争とヨム・キプール戦争に加えて、第 3 部 (1956-1973)では、イスラエルに関しては地政学的にほとんど注目されないトピック、イスラエルの水戦略を扱った。 これは控えめに言っても驚くべきことで、イスラエルは近隣諸国の利害に関係なく、この問題へのアプローチにおいても極めて一貫しているからだ。

パート 4 1982 年のレバノン戦争に光を当てる。この戦争は、イスラエルがパレスチナの PLO を壊滅させる目的で自国の領土外で行った戦争である。 その武装組織は、先のヨム・キプール戦争でイスラエルによってヨルダン川西岸地区からヨルダンに追放され、ヨルダンでの政治的要求の暴力的な強要の試みの後、ヨルダン国家によってレバノンに追放された。

第 5 部 は、1993 年から現在までをカバーする。 その結果、PLO は無価値な存在となり、ハマスがパレスチナ人にとってますます重要な存在となった。

シリーズ「イスラエル-被害者から加害者、そして被害者へ-80 年の前後関係」
表紙写真 - 2023 年 11 月 5 日～12 月 29 日

イスラエルと虐殺の歴史を扱うことは、読者にとってだけでなく、私自身にとっても目を見開かされるような経験だった。 というのも、ほとんどの人は懐疑論者ではなく、おとぎ話が悪夢であることを暴くのに必要な 200 時間ほどの時間を捻出できないからである。

事実と用語

大虐殺が買われている

私たちは今、熱い鉄に触れている。事実を公表することさえ、大統領選挙を（共同で）決定することができるほど裕福で強力な集団（ミリアム・アデルソン）に対して正面から攻撃することにほかならない。 大量虐殺が戦争と呼ばれるようになったのは、人類史上初めてのことである。

この広範な記事では、世界中のあらゆる資金を投入しても覆すことのできない事実の土台を築いた上で、初めて意見を述べる。

ミリアム・アデルソンはドナルド・トランプの資金源に１億ドルを注ぎ込んだ。 その代償として、２つのイスラエル国旗と１つのアメリカ国旗という３つの国旗の前に立ち、アメリカの政策が誰の利益と一致しているのかを示した。
出典：タイムズ・オブ・イスラエル

シオニズムは宗教ではなく、犯罪的手段に訴える運動である

シオニズムとユダヤ教は区別されなければならない。シオニズムは運動であり、宗教ではない。 シオニズムの目標は、第一段階として、パレスチナにおけるユダヤ人国家の樹立、正当化、維持であり、第二段階として、大イスラエルの樹立である。 したがって、シオニズムが追求するのは政治的な目標であり、宗教的な目標ではない。 この区別は不可欠であり、シオニスト、西側の政治家、メディアによって意図的に隠されている。

シオニストたちは、「シオニズム」と「ユダヤ教」という用語を意図的に混同し、ユダヤ教を自分たちの政治的意図の盾として利用している。 シオニストの犯罪行為に対する批判が起こるやいなや、シオニストだけでなく、事実上すべての西側の政治家やメディアによって、彼らの批判者は反ユダヤ主義者のレッテルを貼られる。

脚注：セム人とはユダヤ人だけでなく、アラブ人、エチオピア人、エリトリア人、マルタ人、アッシリア人など、さまざまな民族のことである。 つまり、反ユダヤ主義者はユダヤ人だけではなく、これらの民族すべてを憎んでいるのだ。 言葉や用語の意味がいかにぞんざいに扱われているかを示すもう一つの証拠である。

非ユダヤ系シオニストがアメリカ政治を牛耳る

ユダヤ人でないシオニストは多い。 数字はないが、シオニスト全体の 50%はユダヤ人ではないという試算が出回っている。 もちろん、シオニストはこれを陰謀論として否定するだろう。 そこで、アメリカにおける金と権力の接点、現在のアメリカ政府を見てみよう。 よく知られているアデルソンからトランプへの多額の献金に加え、アメリカの政治家の大群全体が買収され、イスラエルの利益のために発言し、投票している。 現在の第 119 回アメリカ議会（532 人）では、ユダヤ人はわずか 32 人（6%）しかいない。しかし、87%がキリスト教徒で構成されるアメリカ議会は、1948 年以来、シオニストとして断固とした投票を行っている（数字：ピュー・リサーチ）。

議会で多数を占めるには、50%プラス 1 票（266＋1）が必要である。したがって、少なくとも 235 人の非ユダヤ人と 32 人のユダヤ人が一緒になって、アメリカのシオニスト政策を決定しているのであり、アメリカ議会におけるシオニストの非ユダヤ人の割合は、なんと 88%に達する。

シオニズム： アメリカのシオニスト政治家にとっての利益

例えば、リンジー・グラハム、テッド・クルーズ、マルコ・ルビオ、マイク・ジョンソン、マイク・ハッカビーなどである。 アメリカ・イスラエル公共問題委員会（AIPAC）は、超党派の支持を促進する上で重要な役割を果たしている。 AIPAC は米国で唯一、外国に支配されたロビー団体であり、外国代理人法を遵守する必要がない。

グラハム、ルビオ、ジョンソンといった政治家たちは、親イスラエルの献金者（AIPAC）から多額の選挙献金を受けており、親イスラエルの議員たちは平均 125,000 ドルであるのに対し、パレスチナ支持の議員たちは 18,000 ドルであ

る。 このように、ガザ虐殺は、アメリカにおける彼らの政治的支持者にとって非常に有益なのである。

シオニストの目標は大イスラエル

陰謀論から事実へ

シオニストの目標は、現在のイスラエルよりもはるかに壮大である。 大イスラエルの創造である。 つい最近まで、この計画を口にする者は陰謀論者として排除されていた。 しかし今日、シオニストはその計画について公然と語っている。

例えば、ベザレル・スモトリッチは、2024 年 10 月にイスラエルの財務大臣に就任する：

ベザレル・スモトリッチ - 提供タイムズ・オブ・イスラエル

「私が望むのはヨルダン、サウジアラビア、エジプト、イラク、シリア、レバノンを含むユダヤ人国家だ」*ベザレル・スモトリッチ*

今、ついに秘密がばれた。

（大イスラエルの）地図には数え切れないほどのバリエーションがあるが、基本的には次のようなものだ：

そのため、以下の国々は身を守る必要がある。エジプト、ヨルダン、サウジアラビア、イラク、シリア、レバノンである。

イスラエルのスローガンである「川から海へ」は、実際の目標を意図的に隠している。何年もの間、イスラエルの領有権主張はヨルダン（「川」）から地中海（「海」）まで続くとほのめかされてきた。しかし、実際はナイル川からユーフラテス川までである。

キプロスが危ない？

2024 年 10 月 10 日にトルコの通信社が発表した地図のように、大イスラエルがさらに大規模に設立されることを描いた地図がインターネット上に出回っている。

出所 Sigmalive.com

この地図では、大イスラエルはトルコとキプロスの一部も含んでいる。 以前から、キプロスの広大な地域がイスラエル人によって買収されてきた。 イスラエルが建国される前、パレスチナでも同じことが起こった。 したがって、キプロスの市民や政治家たちは理由もなく心配しているわけではない。 19 世紀後半には早くも、キプロスはユダヤ人難民の移住先として、イスラエルへの足がかりとして、一時的な解決策の可能性が示唆されていた。 イスラエル・イラン戦争が勃発して以来、渡航禁止にもかかわらず、何千人ものイスラエル人がキプロスに押し寄せた。

X には、パレスチナ人からキプロスの人々への無数の警告が掲載されている。

キプロスの植民地化に対する批判は、当然ながらイスラエル人によって反ユダヤ主義として退けられる。 キプロス人として、私は心配だ。

言葉とイメージの中のジェノサイド

多くの人々にとって、犯罪は視覚的にさえ存在しない。 見えないものは存在しないのだ。 しかし、その証拠は、特に X では簡単に見つかるが、従来のメディアでは見つからない。

私は調査の過程で 2 日間、残虐行為を見て回った。 その代償として、1 週間以上眠れぬ夜を過ごした。 私の目的は、読者に眠れぬ夜を与えることではなく、立ち上がるエネルギーと論拠を与えることである。

だからこそ、不眠症を引き起こすことなく、大量虐殺を証明するのに十分な証拠となるはずの映像をここで紹介しているのだ。

ここに掲載されている資料の一部は、政府があなたに見てほしいと思っている世界を示していないため、あなたが読む時にはもう入手できない可能性が大いにある。 その場合、リンクは機能しなくなります。

（略）

シオニズムとイスラエルに反対する多くのユダヤ人

ジェノサイドを批判する者はすべて反ユダヤ主義だと非難するメディア

西側メディアは、公然たるジェノサイドを一緒になって正当化しながら、するのと手を携えて、シオニズムとユダヤ教を混同するウソがばれないように必死になっている。 なぜならユダヤ人自身がこれらの嘘を指摘しているからであり、まさに今、これが起きているのである。

これは X で、”Rabbis against Genocide "または"Rabbis against Zionism"と検索すれば、すぐ見つかる。 大手メディアは、自分たちの繕った物語をコントロールできなくなっている。、ドイツ語圏で最も影響力のあるジェノサイド推進機関であるノイエ・ツュルヒャー・ツァイトゥング紙（NZZ）が、イーロン・マスクの X の AI ツールである Grok を反ユダヤ主義だと非難したことは、驚くには当たらない。「イーロン・マスクのチャットボットが反ユダヤ発言をする」と。 メディアが「反ユダヤ主義の物語」を失うことを恐れるのは理解できる。もしこの物語が崩れれば、彼らは自分たちの正体を世界に知らしめることになるからだ。大量虐殺のサイコパスである。

インターネット上の無数の情報源の中から、正統派ラビとイスラエルの有名ジャーナリストの 2 人の発言を紹介しよう。

ラビ・ゴールドバーグ、短く要点を述べる

> **「古代の宗教的、集団的なものを、シオニストにとって都合がいいからという理由で国籍に変えることはできない。たしかにユダヤ人はイスラエルに住んでいるし、彼らの安全を祈っているが、だからといってイスラエルがすべての国籍のユダヤ人の国になるわけではない。 ユダヤ教とシオニズムを組み合わせることは、より多くの反ユダヤ主義を生み出す鍵となる」**

ギデオン・レヴィ（ジャーナリスト）の発言（X からの文字起こし）

我々が選ばれた民だとしたら、我々にああしろこうしろとだれがいうのか。それは誰なのか。イスラエルにどうこうしろという国際社会とは何者なのか。国際法だって？たしかに素晴らしいけど、我々には当てはまらない。他の世界には当てはまってもイスラエルには適用できない。なぜなら我々は選ばれた民だからだ。そうでしょう。

2 つ目に、深く根ずいた価値観は、われわれは被害者だということです。最大の被害者ではなく、世界で唯一の被害者なのだ。たくさんの占領者があるし、イスラエルよりも長いものもある。より野蛮なものもある。更に一層過酷なものもある。しかし自分自身を被害者とみとめる占領者はイスラエルしなない。単に被害者なのではなく、唯一の被害者なのだ。ゴールドメイヤ元首相の言葉を引用したい。忘れることができないものだ。彼女はかつてこういった。我々に子供の殺害を強いたアラブ人たちを決して許すことができない、と。（会場から笑い）　我々は犠牲者なのだ。子供の殺害を強いられたのだ。なんて可哀そうなんだ。被害者として、歴史のなかで唯一の被害者として、我々には何でもする権利もあるのだ。我々にああしろこうしろという権利はだれにもない。なぜなら我々は唯一の被害者だからだ。

これに加え、第三の非常に根深い価値観がある。この価値観もまた、誰もが否定するだろうが、イスラエル人のほとんどすべての人を捉えている心の底をみるとわかる。パレスチナ人は我々と同じ人間ではないのだ。吾々と同じではない。吾々のようには子供を愛さない。我々のようには愛さない。生まれながらの殺人者なのだ。残虐でサディストだ。価値観もマナーもない。どのようにした我々を殺したかみてみなさ。これはイスラエル社会に深く根を下ろしており、たぶんそれが核心の問題だ。なぜならこれが続く限りは何も動かないからだ。イスラエル人がパレスチナ人を同等の人間として認識しない限り、我々は彼らよりもはるかに優れている。はるかに発達している。はるかに人間らしい。これが本当だとしたら、この中心問題が変わらないかぎり、我々の夢は決して実現しない。

正統派であろうとなかろうと、何千人ものユダヤ人がイスラエルの政策に抵抗し、シオニズムに反対する明確な声明を出している。 この勇気ある人々がどんな危険にさらされているか、私は想像したくもない。 イスラエルの醜悪な政策に反対し、社会構造のために沈黙を強いられているユダヤ人がどれほどいることか。

ナチスの虐殺者たちはなぜ嫌われたのか？ キリスト教徒だったからなのか

ナチスとその支援者たちが 600 万人のユダヤ人と 1500 万人以上のソ連の民間人を虐殺したのは事実だ。 このようなサイコパス（反社会的、暴力的傾向をもつ精神病質者）を憎むのは正当なことだろうか？ - 私はそう思う。

「この大虐殺の最大の嘘、それは大虐殺に反対する者は反ユダヤ主義者だということだ。
この犯罪者たちを憎むのは、彼らが大量虐殺を行ったナチスだからか、それとも彼らの宗教のためなのか。加害者は実質的に 100%がキリスト教徒だったと考えられるが、ホロコーストの結果としてキリスト教徒が憎まれたという話は聞いたことがない。 では、シオニストであるイスラエル人がパレスチナ人を虐殺したとき、加害者の多くがユダヤ人だからといって、なぜ私たちがユダヤ人を憎まなければならないのだろうか。この論理に気づけば、大量虐殺を批判する者は反ユダヤ主義者であるという主張、パレスチナ人虐殺犯罪の加害者であり擁護者であるサイコパスたちが広げている物語を取り除くことができる。

サイコパスが率いる抑圧的な国家 - 自国民に支持される

イスラエルは、2 国家による解決を求めた有名な国連決議 181 号に違反し、一方的に宣言された。 したがって、イスラエルは法的根拠を持たない国家であり、「存在の法的根拠」はないが、単に「存在する権利」を持っているにすぎない。 それゆえ、このような不安定な法的基盤の上に立つ国家は、その住民

や近隣諸国の権利を尊重する努力を惜しまないだろうと考えるだろう。 しかし、現実はその逆である。

1948 年以来、イスラエルはナチスドイツのような振る舞いを強めてきた。 約 80 年にわたってアラブ系住民を組織的に殺戮・排除し、アパルトヘイト政権を率い、2023 年 10 月 7 日をパレスチナ問題の「最終的解決」を開始する好機と捉えているようだ。 公の場でこれほどひどい振る舞いをし、同時に自らを被害者だと思い込み、大量虐殺的な振る舞いを「自衛の権利」として提示する気概を持った民族は、人類史上かつていなかった。 ここでの発言の正確な事実関係については、私たちのイスラエル・シリーズを参照してほしい。

ゴルダ・メイア（1969-1974 年イスラエル首相）は、実年齢よりも祖母らしく見えた。「子供たちを殺させたアラブ人たちを決して許さない」

ジェノサイドに加担する西側メディア

共犯者は主犯と同様に処罰される

西側諸国の商業メディアはほとんどすべて、最悪の方法で概念をねじ曲げ、歴史を凌辱し、金で雇われた子分として、大量虐殺を促進するだけでなく加担し、共犯者になっていることは明らかである。

刑法は幇助と共同正犯を区別しており、幇助の場合は犯罪への寄与が従属的であるが、共同正犯の場合は犯罪の実現に因果関係がなければならない。 この寄与は同等性ではなく、犯罪の実行における関連性を必要とする。

もしメディアが客観的かつ事実に基づいて正しい報道をすれば、世界中の人々が自国の政府にイスラエルとの一切の接触を断たせ、イスラエルは武器と資金不足のためにこのような犯罪を犯すことができなくなる。そうすれば大量虐殺は不可能になるだろう。

従って、西側メディアは共犯である。 共犯者は主犯と同じように処罰される。 ジェノサイドはメディアの参加によってのみ実行されるため、このような参加形態による処罰の軽減はない。

ニュルンベルクの判例 ユリウス・シュトライヒャー

この見解は決して突飛なものではない。 ドイツ国家社会主義者の機関紙『シュトゥルマー』のユリウス・シュトライヒャー編集長は、1946 年にニュルンベルクで他の主要戦犯とともに絞首刑に処された。 メディア関係者にはなんらかの自己分析が求められる。

書くことは危険なことである - キャリアの終わりを迎えたユリウス・シュトライヒャー - 1946 年 10 月 16 日 - 出典: Getty Images

ヨーロッパとは対照的に、アメリカでは批判的な声が大きくなっているが、以下では、西側諸国のほとんどすべてのメディア企業を代表する、ドイツ語圏の 2 つのメディア企業の慣行と発言を分析する。

ドイツ初の国営テレビ局 ARD は、数十年前のドイツの犯罪の後に、本当はもっとよく知るべきだったのだが、今日ではその極悪非道な振る舞いが際立っている。 また、スイスの週刊誌『ヴェルトヴォッヘ』についても触れておこう。この週刊誌は、自らをロビン・フッドのような真実の救世主のように見せかけたがるが、21 世紀最大の犯罪にたいしてはまったく失敗し、大量虐殺の犠牲者だけでなく、その読者をも裏切っている。

ゲッベルスを追うドイツ国営テレビ

パレスチナ問題の最終的解決が始まった 10 日後、ドイツ国営テレビ（ARD）のオリバー・ケール編集長は、中東紛争の報道に関する用語集をスタッフに配布した。 この文書は社内で使用するためのものだったが、おそらくこのゲッベルス的なアプローチに嫌悪感を抱いた従業員を通じて、一般に公開されることになったのだろう。 この文書を読めば、ドイツ初のテレビ局の経営陣が、自社の従業員に偽科学的な中途半端な真実を吹き込み、大虐殺を正当化させた背信行為を知ることができる。 これについては、「ARD 用語集が大量虐殺を正当化-ゲッペルス博士も誇りに思うだろう」で報告した。

左：家族思いのオリバー・ケール - ARD 編集長、テディベアルック - 右：虐殺されたパレスチナの赤ん坊 - 出典: Forum Geopolica 虐殺されたパレスチナの赤ん坊たち - 出典： ForumGeopolitica.com

スイスの週刊誌『ヴェルトウォッヘ』もまた協力者である

スイスの週刊誌『ヴェルトウォッヘ』の発行人兼編集長は、自らを批判的知識人であり、あらゆることに疑問を投げかける真実のロビン・フッドであるかのように見せかけたがるが、大量虐殺に関しては何も疑問を投げかけず、シオニスト路線を確実に推進している。

ロジャー・ケッペルは、自身の日刊番組『ヴェルトヴォッヘ・デイリー』で、2024 年 12 月 6 日に次のように語っている（短縮引用-全編動画）：

> **アムネスティ・インターナショナルがイスラエルを大量虐殺で非難したが、今回ばかりは、何でもかんでもジェノサイドと呼ぶのはやめてほしい。 [中略）私が知っている大量虐殺、あるいは大量虐殺未遂は一つだ。それはユダヤ人の大量虐殺だ。 [中略）今、私はガザの状況について言いたい。 それは大量虐殺ではない。 イスラエル人が大量虐殺をしたいのなら、もっと簡単な方法がある。 ガザ地区に爆弾の絨毯を敷き詰めればいいだけだ。 [...）"ジェノサイド "という言葉は、WOKE（覚醒した道徳主義者）や十字軍兵士、覚醒した--右翼でさえも--人々の武器となり、この言葉の意味を無効にしている。 ヨルダンにはたくさんのパレスチナ人がいるが、彼等は殺害されていない。**

ロジャー・ケッペルは ウェルトウォッヘ発行人兼編集長だ。（ ウェルトウォッヘ日刊紙 - 2024 年 12 月 6 日）

これらの発言は、ジャーナリズムとして、人間として、知的な最低条件を満たしていない：

◆ジェノサイドは犯罪であり、イスラエルの行為をジェノサイド犯罪に含めるためには、国連のウェブサイトや ICC の審議を一目見るだけで、法律の素人であっても十分だったはずだ。 知識人でなくても、常識と 10 分の時間があればできることだ。

◆彼は事実も否定する。例えば、イスラエルはガザに爆弾の絨毯を敷き詰めることで「大量虐殺を行う」ことができると主張している。

◆なぜケッペルは、自分が推進する大量虐殺をわざわざ否定するのだろうか。彼とは対照的に、イスラエル人は大虐殺をまったく否定せず、そうする権利があると信じており、当然この「仕事」によって被害を受けていると感じている--ゴルダ・メイアの言葉を参照。

◆大量虐殺はドイツによるユダヤ人虐殺しかなかったと主張するとき、彼は典型的なイスラエル人のように、「我々は被害者であり、唯一の被害者なのだ」言っているだけではない。 シオニストの熱狂の中で、この自称ロシア専門家は、ナチスがソビエト連邦で 1590 万人から 1740 万人の市民を虐殺したという事実を見逃しているのだろう。 ケッペルは、数の上では人類史上最大の大量虐殺にさえ言及していない。

◆ケッペルが、ヨルダンには殺害されていないパレスチナ人が大勢いると述べたとき、私はこの発言から何を読み取ればいいのかわからない。パレスチナ人が生き残りたければ、祖国を離れるべきだというのか。

◆ケッペルは、プーチン大統領のウクライナでの行動とネタニヤフ首相のガザでの行動を結びつけることで、大量虐殺を正当化しようとしている。 彼は、プーチン大統領が ICC から指名手配されているのは大量虐殺のためではなく、子どもたちをロシアに強制送還した容疑のためであることに触れていない。この告発は通用しないことがとっくに証明されており、ウクライナ側はもはや主張していない。 ケッペルは、2023 年 5 月にモスクワで、まさにこのテーマについて、ロシア子ども権利委員会のリボヴァ＝ベロヴァ女史とインタビューを行っている。

ヴェルトヴォッヘ紙は数日前、道徳的な指針を完全に失った。2025 年 7 月 4 日付に「ユダヤ人の最大の敵は-ユダヤ人」という記事を掲載し、大量虐殺に反対するユダヤ人を攻撃したのだ。 著者のデイヴィッド・クラインは、イスラエルでの大量虐殺に反対するユダヤ人を "Duldungsjude"（「寛容のユダヤ人」）と呼んでいる。

『ヴェルトヴォッヘ』の編集者はこの記事が最悪の性質のものであることを明白に認識していたことが示された。『ヴェルトヴォッヘ・オンライン』では初めてコメント機能がオフにされたのだ。この記事はシオニストへのサービスで

あり、有料読者の意見を聞きたくなかった。ヴェルトウォッヘの読者はコメントを投稿することができなかったので、何人かがわれわれにコメントを送り、なぜコメント機能が停止されたのかについて編集部に問い合わせたが、回答が得られなかったと伝えた。 この記事を『シュトゥルマー』紙と比較する読者もいた。 "Duldungsjude"？とは、- 許せない！

家族の一員である男が、子供たちの大量虐殺を正当化できるのか？

私は一人の父親として、どのような状況であれ、このような行為を容認することが理解できない。 明らかに、大量虐殺を支持し、あるいは実行する人々は、自分の子供と "劣った人 "の子供を区別することができる。そういう良心のメカニズムを起動させることができるのだ。 歴史的な例もある。

ルドルフ・ヘス、アウシュヴィッツの別荘で 5 人の子供たちの父親として慈しむ（1943 年） - 出典：Geo-Wissen

なぜメディアはこんなことをするのか - 金が世界を支配する

アメリカでは、買収された政治家の場合、金の役割は明白であり、確固たる事実で証明できる。 政治家の "サービス "は平然と買われている。

欧米のメディアは、日頃から独立性を口にしている。 私にとって、大虐殺に関する倒錯した報道は、反対の証拠である： ほとんどのメディアは、広告主や無名の後援者によってコントロールされている。 この影響の性質について、私は何ら情報を提供できない。というのも、（筆者が運営する WS）フォーラム・ゲオポリティカは広告料を受け取らないからだ。 そうでなければ、私たちの仕事ができない。

しかし、真の独立には代償が伴う。 もしあなたが別荘やバケーションハウスを維持し、莫大な旅費を積み重ねなければならないのなら、それは贅沢が日課だからであり、パブリッシャーとして、広告収入に関係なくそのようなライフスタイルを維持できるような私財を自由に使えるようにしなければならない。

結論

これほどの悪と欺瞞、そして買収された人々を目の当たりにして、人はどのような結論に達するべきだろうか？ - 和解の言葉を選び、罪を犯した人々が変わることを望むのは、不誠実で甘い考えだろう。

もしニュルンベルク裁判とその判決（1946 年）の基準を適用するならば、以下の組織とその幹部は極刑に処されることになる。 主な加害者はイスラエル政府、シークレット・サービス、軍であり、大量虐殺に直接関与した者たちである。 この大虐殺を政治的、経済的、軍事的に実現可能にした西側諸国の政治家に加え、メディアも共犯者として強調されるべきである。 彼らの意図的な虚偽、操作報道がなければ、西側諸国の国民はこのような犯罪を容認し、その結果、支持するような心構えにはならなかっただろう。

ホロコーストとは対照的に、この大量虐殺は公の場で行われ、西側の政治家やメディアによって支持され、推進されている。 西側社会はこのように退廃的

であるため、法廷のような浄化プロセスのためのエネルギーを奮い立たせることはおそらくできないだろう。

私は、歴史認識のない国家や、そのような組織や企業が存在する道義的権利を否定するだけである。 もし人類がこのような怪物的な生き物や組織に歯止めをかけることができなければ、我々が文明と呼ぶものの存続可能性に疑問が生じる。最低限の人間性と正義がなければ、社会システムは存続できないし、存続すべきではない。

文明とはまた、大量虐殺の被害を直接受けた人々が、加害者から身を守るためにあらゆる手段を用いる権利を持つことを意味する。 どのような形であれ、大量虐殺を支持するメディアやその支持者は、社会的追放によって追放されるべきである。 彼らは孤独の牢獄で、二度と声を聞くことなく、孤独に死ぬべきである。

（了）

筆者のピーター・ハンセラーはモスクワ出身の地政学アナリスト。 スイスのチューリッヒ生まれ。 チューリッヒ大学ロースクールで法学博士号（lic.iur.）および博士号（Dr.iur.）を、ジョージタウン大学ロースクール（ワシントン D.C.）で国際商法修士号（LL.M.）を取得。 ピーターは独立系であり、その活動は政府や民間団体の支援を受けていない。 ピーターのウェブサイト Forumgeopolitica.com は英語、ロシア語、ドイツ語、フランス語でコンテンツを公開している。

【翻訳チェック　田中靖宏】